



特定失踪者

やくらとみやす

矢倉富康さん

1988(昭和63)年8月2日

隠岐島沖で失踪

(当時36歳、米子市出身)

失踪時の状況 ー特定失踪者問題調査会の調査よりー

- ・1988(昭和63)年8月2日午後6時、「^{いっせいまる}一世丸(5トン)」で一人漁に出発。翌3日午前6時に帰港する予定であったが、帰港せず行方不明となる。
- ・海上保安庁と漁業組合員が、翌3日から5日まで操業海域を捜索したが、手がかりはなし。その後、海上保安庁は広範囲の捜索を行ったが、やはり手がかりはなかった。

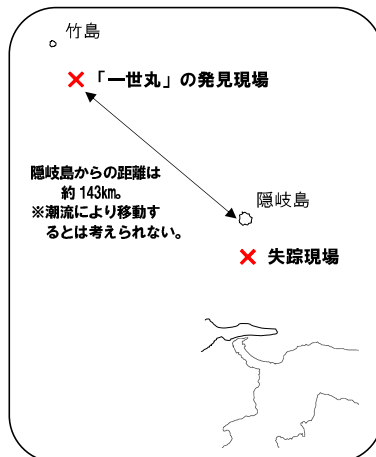
失踪に係る不審な点

- ・8月10日、海上保安庁が竹島沖南南東25キロのあたりで、矢倉さんの漁船を発見。しかし、発見場所は何らかの理由によって航行不能となったとしても、潮流の関係からその場所へ移動することは考えられない場所であった(下図参照)。
- ・発見された「一世丸」には、左舷前方に他の船舶と衝突した痕跡が残されており、付着した青色の塗料は、当時の日本船舶に使用されていない塗料だった(下の写真参照)。また、事件前日に失踪現場付近の海域で不審な船を目撃したとの証言がある。
- ・矢倉さんの遺体は発見されていない。

<発見された矢倉さんの「一世丸」>



※衝突跡には日本船舶に使用されていない青色の塗料が付着。



北朝鮮が矢倉さんの高い専門技術に注目か

- ・矢倉さんは、技術者として日本精機株式会社に、倒産する1984(昭和59)年まで勤務していた。
- ・日本精機株式会社は、100分の2ミリの精度で鉄などを加工することができる精密工作機械(マシニングセンター)の製造で、当時国内トップクラスの技術を誇っていた。
- ・日本精機株式会社が製造するマシニングセンターは、ミサイルなどの兵器製造にも転用することができる工作機械で、共産圏への輸出規制品の一つであった。
- ・矢倉さんは、コンピューターのパンチプログラミングから部品の製作、加工、組み立て、メンテナンスまで幅広くこなせる優秀な技術者であった。
- ・在職中は、精密工作機械の据え付けやメンテナンス、技術指導のために1年のほとんどをアジアをはじめ海外で過ごしており、ポーランドなど共産圏への渡航記録が残されている。また、韓国の「現代造船」へ技術指導のために半年単位で出張していたこともある。
- ・北朝鮮が矢倉さんの高い技術力に着目していたのではないかとかねて噂されていた。

「MADE IN POLAND」の文字ー



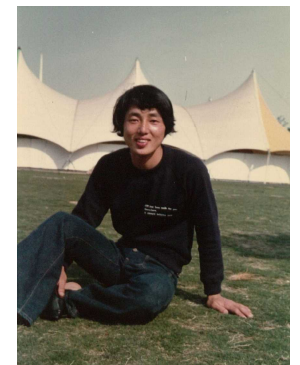
<矢倉さんがポーランドから持ち帰ったお土産>

愛する弟へ ーお姉さんのメッセージー

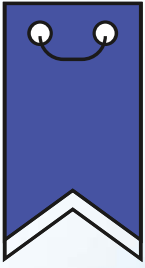
あなたがいなくなってから、もう20年が経ちました。どこにいるの?元気ですか?

あなたのことは、1日も忘れたことはありません。絶対に帰ってくると信じています。1日も早く両親の元気なうちに帰ってきてください。

私の願いはそれだけです。







異国での無事を願って



やくら とみやす
矢倉 富康さん

北朝鮮に拉致された可能性が高いと考えられている一人が、米子市出身の矢倉富康さんです。富康さんの御両親で米子市内にお住まいの矢倉三夫さん・節子さん御夫妻にお話をお聞きしました。



やくら みつ お
矢倉 三夫 さん



やくら せつ こ
矢倉 節子 さん

⇒ 優しい子ども時代

子どもの頃は、近くに住む私（節子さん）の母が病院に行くときに「おんぶしようか」と言っておぶってくれる優しい子で、父親とけんかしたこともありません。学校では野球の助っ人に出るなどスポーツ万能でした。

⇒ 仕事一筋の会社員時代

高校を卒業してからは精密工作機械を製造する会社に勤めました。納期が近づくと徹夜しても間に合わせるなど仕事一筋でした。



会社員時代は関東方面への出張が多く新潟の旅館に板を預けてスキーを楽しんでいました。

月に20日は出張で、製品の納入後の設置や

整備をしていました。海外への出張も多く、パスポートはビザのスタンプで一杯でした。海外出張のたびに洋酒を買って帰ってきましたが自分ではお酒を飲まないで、友人をよんで振る舞っていました。

1984年（昭和59年）に勤め先の会社が倒産し、これが転機になってしまいました。

⇒ 境港から出港して不明に

漁師をしている友人の姿を見て漁船を買い、境港の漁協に属して小型底引き網漁を始めました。

事故があったのは漁師になって3年目でした。8月1日が港祭りの日で、次の日の夜に出漁しました。明るくなる日の朝に戻ってくる予定で、自動車も岸壁に置いたままでした。

漁協から「戻ってこないで、搜索する船に同乗するか」との問い合わせがありました。3日間、組合員総出の搜索があり、私（三夫さん）と私の兄弟が乗船しましたが、何の手がかりもなく、海上保安庁が搜索を引き継ぎました。

⇒ 船は竹島沖で発見

8日目に海上保安部から竹島の25キロ沖で船が発見されたと連絡がありました。操業する地点からは140キロも離れています。曳航されて戻った船には、左舷の船首近くから船尾にかけて青色の塗料が付着していました。衝突した船の塗料だとして海上保安庁で分析し、外国の船だろうということでしたが、それ以上捜査が進みませんでした。

⇒ 無事を願う

平成14年（2002年）に週刊誌の取材があり、マシニングセンタ（コンピューター制御の工作用機械）の技術に着目して拉致されたのではないかという記事が載りました。

北朝鮮にとって役立つ人間が帰されるのは一番最後になるという話もありますが、とにかく無事でいてほしいと願っています。

※矢倉富康さんのお父様 三夫さんは、平成27年2月に御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます